

ある。

◎自四年至十年

1 折紙模本 三十五種の折紙を説明した本が一冊と其凡ての種類を折つた模本とが入つてゐます。少し大きい方には之を模本として折らせ小さい方にはお付きの方が折つて見せて下さい。

2 折紙人形(七福神) 之は折紙の最も進歩したもので意味を充分表はせる折紙です折方の説明もあり印刷した用紙も這入つてをる七福神の由来記もある。

## 幼稚園に於て玩具を如何に使用せしむべきか

T  
生

フレイベル氏の恩物は理論上より演繹したもので組織的である系統的である將又各恩物の間に連絡もある幼稚園に此の系統的連絡のある處を無視して恩物を使用したならば恩物の價值は存じないのであるが茲に注意すべきは恩物なるものは玩具の

基本形である骨子である眞體である決して飾られた興味付けられた玩具ではない、恩物を基本として玩具は無數に造られてゐるのである故に恩物なるものは飾られざる理論的の玩具と見ることが出来る此の飾られざる恩物によりて幼児をして興味津々飽くことを知らざらしむるものは一に保母の腕前に待たねばならぬ、然しながら幼児教育の材料たる所謂玩具は恩物のみでは缺けてをる何故ならば恩物は心身の經驗的練習を本體として之を演繹し二十恩物を割出したからである、幼稚園の時期には尙觀察を要する模倣を要する決して練習的のものゝみにて満足すべきではない、茲に於てか他の玩具を要する所謂普通の玩具或は運動具等より適宜に撰擇せねばならぬ必要がある當今各所の幼稚園に於て種々玩具を買入れる傾向のあるのは誠に喜ばしき現象である、併しながら恩物の使用につきては種々研究せられ、其の實際の状況も報告さるゝことが常にあるのに普通の玩具の取扱ひに就きては未だ其の研究の聲を耳にすることの少きは遺憾千萬である、名薬も使用を誤れば人を殺

し滋養分が下痢劑とならぬとも限らぬ、山なす玩具も其の使用法を誤れば其の効果を見ないのである、然らば如何に玩具を用ふべきか是れなかく六ヶ敷問題であるが以下少しく論じて見様と思ふ。

◎観察させること 観察的の玩具は能く観察させねばならぬ、此の観察させる時には、比較するところが最も肝要である、假令ば兎の耳と犬の耳とはどちらが長いとか、耳が長い代りには尾が大變短いか、前脚が短いのに後脚は非常に長いが何故であるとか種々に面白く観察せしむることが出来る、之は兎に就きての一例であるが、其の他の動物にせよ、器具にせよ凡てについて其の成製構造等を發問的に観察せしめ互に應答せしむるは興味あることである、繪ときと云ふことは一般に行はれて居るが、此の繪が一層具體的になつて玩具とときでも云つたならばよいかも知れない。

◎實驗させること 玩具には又簡單に手指の勞を與ふれば種々に變化する實驗的のものがある、此の種のものには玩具として價値の多いものであるが

之を使用するには先づ能く観察せしめ各部の形態構造等を能く知らしめた後各自に實驗させるのである、之れ興味あることは云ふ迄もなく兼て手指の練習ともなり經驗的知識を得ることが多大なのである。

◎模倣遊戯に用ゐしむること 幼稚園時代の兒童は模倣性が盛に發表される時であるから盛に模倣遊戯をなさしむる必要があると同時に之に要する器具を與へなければならぬ米國から幼稚園を視察に来た有名な人(名を一寸忘れたが)が岸邊園長に日本では何故幼稚園で今川焼をやらせないと云つたさうだ語は簡なりと雖も大に味ふべき言葉である直ぐ今川焼を持つて來られては困るかも知れないが兎に角模倣の必要を云つたものだと思ふ。模倣遊戯に用ふるものは先づ男子には劍鐵砲樂隊などは殊に面白からう之は東洋幼稚園長岸邊氏が大に鼓吹せられてゐる女子のまゝごと家族遊びに用ゐしむるもの、如きは著しきものである。

◎練習せしむること 練習玩具は前にも述べた如くフローベル氏の恩物が尤も代表的のものに此の

用ゐる方に就きては皆さんが充分に研究もせられ又實際やつてをらるゝことであるから別に喋々を要せないが此の恩物以外にも所謂興味付けられた種々の練習玩具のあることを忘れてはならぬ。

以上は單獨に用ふべき方法を述べたのであるが愈々實際に行ふことになると如何にして家兒に觀察させ或は實驗させ乃至は模倣遊戯に用ゐしむるか、場所は如何、時間は如何、教材配當は如何、之等は別に實際に當られて居る方が土地の状況と兒童の氣向とに依つて研究して工夫せねばならぬ唯だ泣さずに歸した丈けでは子守と保母との差別はないのである今左に實例を參考の爲めに掲ぐ。

◎東京府女子師範學校附屬幼稚園 一週に二回宛玩具遊びの時間をおいてあるで此の時間にはあり丈けの玩具を出して兒童に勝手に遊ばせる。而して保母は之を看督してゐますと實驗するものもあり觀察するものもあり芝居が始り擊劔が始まる兒童の喜びは非常なもので此の時間の來るのを待ち兼ねてゐるとの事だが實に面白いであらうと思ふ活躍の狀眼前に見る如しである然し茲に注意すべ

きは可成多くの保母助手が付いて能く誘導せねばならぬ且つ之のみが唯一の法にはあらずして一層組織的に秩序的に玩具を用ゐしむることも亦必要である。

◎東京市二葉幼稚園 大なる人形と寢具とが作つてあつて早く来た兒童が此の愛らしい人形を床より起こし襦衣を脱がせて着替をさせる夜歸るときには又ねまきと着替へさしておく何んと面白いではないか兒童は必ず朝おこすときは泣いてはいけなやかあゝ良い兒／＼なんて我兒の様に扱つてゐるでせう、ねかす時はね／＼と兒守歌位は屹急歌つてゐるでせう和氣霽々たる情は此の間に養はるゝのである、夫れから遊びにでも行くときは晴衣と着替へさせて連れて行くとの事涙が出る程愛らしいではないか、かくなれば玩具も生して使ふと云ふものだ斯様な方法を幾つも考案してやつたならば兒童は如何に幸福であらうか併し多くの皆さんの中には如斯良法否以上の工夫が澤山あるであらうと思ふ一人食ひにしないとほとんどん發表を願つて互に斯道の改善進歩を計りたいと

思ふ餘り下手で長いからは位で擲筆することにする。  
(完)

### 此頃の料理

石井泰次郎

#### 椀

青豆豆腐  
葛あんかけ  
おろし生姜

青豆(枝豆なり)、を鞘のまゝよく茹で、さやを取つて摺鉢に入れ、能く／＼摺りつぶし置く。次に葛粉を、豆が一合位なれば葛も同じく二合を、鉢などに入れ、水を加へて掻き廻し、とかして、其まゝ、靜に暫く置く時は、葛粉は下に沈み、塵など上に浮ぶ故、しづかに上水を流し捨て、又新に水を入れて鍋に移すべし、よき葛二合につき水六七合入れてよし、葛の質によりいろ／＼あれば、初めは少しすくなき加減に入れ置き、あとより追々に入るをよしとす。摺りたる青豆も葛と共に鍋に入れ、砂糖と鹽少しづゝ入れ、火にかけ、木杓子にて煉る、こげつき

やすき故能く底の方を掻き廻しながら煉るべし、葛の色の變るまで煉り、四角の器に移し、木杓子に水をつけて、上面を平らにならし冷して堅くするなり、あたゝかきうちは、庖丁にて切れぬ故、よく冷めたる時、取り出し、庖丁に水をつけながら、一寸角位に切り、それを二切位椀に盛り、葛あんをかけ、生姜のおろしたるを一つつまみ上に置きて出すなり。

葛餡のこしらへ方は、かつを煎汁又は昆布煎汁、何にても好のものとて、味淋酒少量と醬油、鹽等を加へ普通の椀の汁より、少しからめに仕立て、葛粉を水にてとき、右の手に杓子を持ちて汁の中を掻き廻して左の手にて葛を落し入れ、葛の煮えて色のかわりたる時、鍋をおろし、椀に入るゝなり、

#### 深皿

魚の梅味噌あへ  
摺り 柚子

小鯛、鰯、其他何魚にても鱗を去り、三枚におろし、小骨なども少しも残らぬやう毛抜にてぬき取り、鹽をふりかけて暫く置く。